

第8次長期経営計画「ベクトル-V」について

I. 第8次長期経営計画の基本的な考え方 ～認識し、考え、行動する～

1 「当行のめざす銀行像」の実現

これまで当行は厳しい経済環境のもとにあつて、地域金融機関としての社会的責任と公共的使命をしっかりと認識し、顧客のニーズを的確に把握して顧客の満足を得られるような金融サービスを積極的に推進するとともに、中小企業金融の円滑化に努めてまいりました。また、コンプライアンス重視の企業風土を醸成し、収益力の強化、リスク管理の徹底および業務の効率化に努め、財務体質の強固な銀行を目指し、努力してまいりました。

加えて最近では、昨年12月に施行された「中小企業金融円滑化法」の趣旨を踏まえ、顧客サポート態勢の整備・強化、コンサルティング機能の強化に努め、顧客の実情に即した柔軟かつ迅速な対応に努めているところであります。

今後、金融機関を取り巻く環境がますます厳しくなることをしっかりと**認識**し、当行ならびに地域社会の発展のためには、どうしたら良いか常に真剣に**考え**、さらにその考えたところに向かって**行動する**ことが、ますます重要となつてまいります。

当行のめざすべき銀行像は、前長期経営計画と、その方向性に変わりなく、引き続き①「**地域社会に信頼され、親しまれ、お客さまの相談に乗れる存在感のある銀行**」、②「**中小企業と個人に強い銀行**」、③「**躍動的で生き生きとした明るい銀行**」、④「**1兆円規模のバランスの取れた銀行**」ならびに⑤「**堅実経営の銀行**」を掲げ、適正なリスク管理のもと、財務の健全性を保ちながら、収益力の向上を図ることにより、着実にシェアの拡大を図っていくことといたします。

2 コンプライアンス重視の業務運営

引き続きコンプライアンスを経営の最重要課題に置き、これを役職員一人ひとりが実践いたします。また、積極的なCSR活動に取り組むことにより、社会からの信頼を更に揺るぎないものといたします。

3 第8次長期経営計画期間に取り組むべき課題

環境変化に耐えうる、強固な収益基盤をつくり上げる

利益水準の向上に向けた資産ポートフォリオの見直しや経営資源の選択と集中を明確にするとともに、固定経費の削減を強力に進めることにより基礎的収益力の強化を目指し、「環境変化に耐えうる、強固な収益基盤」をつくり上げていくことを最重要課題として位置づけました。

II. 第8次長期経営計画の概要

1 呼称

ベクトル^{ヴィ}-V

当行のめざす銀行像(vision)の実現ならびに企業価値(value)を向上させるため、全役職員が一丸となり力強い(vigor)ベクトル(vector)で経営計画を推進し、厳しい経営環境を克服(victory)するとの意が込められています。

2 計画期間

平成22年4月～平成25年3月（3年間）

3 主要戦略

①「営業(現場)力の強化」

- ・ 本部組織の見直し、人事体制(諸制度)の見直し、店舗網の再構築、パート社員の有効活用その他BPR(ビジネス・プロセス・リエンジニアリング)の推進を図ることにより、営業力の強化を図ります。

②「金融円滑化・地域密着型金融の推進」

- ・ 地域金融機関の本来的使命である地域における金融仲介機能やリレーションシップバンキング機能の充実を図ることにより、営業基盤をさらに拡充します。

また、中小企業金融円滑化法の趣旨に則り、コンサルティング機能を発揮し、地域金融の更なる円滑化に努めます。

③「市場運用部門の収益力強化」

- ・ 有価証券ポートフォリオの最適化を進めるとともに、市場運用の多様化を検討し、有価証券利回りの改善を図ります。

④「リスク管理態勢の高度化」

- ・ 信用リスク計量化システムを活用し、多面的にリスクの所在を明確にするとともに、より精緻な信用リスク量の計測を行い、与信ポートフォリオ管理を強化します。また、当行の経営体力に見合った信用供与限度額を設定するとともに、グループ与信管理を強化し、リスクをコントロールします。
- ・ 日々変化する運用環境を踏まえ、適時・適切に対応できる市場リスク管理態勢を構築します。
- ・ バーゼルⅡに適応したリスク管理態勢を構築するとともに、収益管理システムを活用した戦略的な統合リスク管理を徹底します。

⑤「次世代基幹システムへの移行による、効率的で迅速な金融サービスの提供」

- ・ 次世代システムへの移行に伴い業務を抜本的に見直すことにより、お客さまサービスの多様性、迅速性ならびに事務品質を高めるとともに、お客さまのニーズにあった商品・サービスを提供し、CS(顧客満足度)を高めます。

⑥「コストコントロールの厳格化」

- ・ 採算管理手法の多様化や収益管理の高度化に取り組み、商品や業務の有効性評価をより厳密なものとしします。
- ・ 内部管理コストの節減を中心に、OHRの改善およびコスト配分の最適化に向けて徹底した経費節減に取り組みます。

⑦「企業風土の改革」

- ・ 人材育成の充実等により、より活力ある企業風土への改革に努めます。
- ・ 新人事制度、新人事考課制度を導入します。

⑧「資本政策の強化」

- ・ 収益増による内部留保の積み上げのほか、実行可能な資本政策を実施し、自己資本の充実を図ります。

4 計数目標

計数目標については、成長性、収益性、効率性、健全性の向上をバランスよく実現するため、次の項目を主要計数目標に掲げます。

目標計数(平成 25 年 3 月末) 単体

※ ただし、年度ごと、環境変化に対応し改定いたします。

1 預金残高+預り資産残高	……………	1 兆円
2 コア業務純益	……………	45 億円
3 当期純利益	……………	15 億円
4 OHR(コア業務粗利益経費率)	……………	73.0 %以下
5 自己資本比率	……………	10.0 %程度
6 不良債権比率	……………	4.0 %未満

以 上

第8次長期経営計画

ベクトル - V

【平成22年4月 ~ 平成25年3月】



ひと・くらし・コミュニケーション
長野銀行

基本的な考え方

～認識し、考え、行動する～

「当行のめざす銀行像」の実現

- ① 地域社会に信頼され、親しまれ、お客さまの相談に乗れる、存在感のある銀行
- ② 中小企業と個人に強い銀行
- ③ 躍動的で生き生きとした明るい銀行
- ④ 1兆円規模のバランスのとれた銀行
- ⑤ 堅実経営の銀行

コンプライアンス重視の業務運営

引き続きコンプライアンスを経営の最重要課題に置き、これを役職員一人ひとりが実践いたします。また、積極的なCSR活動に取り組むことにより、社会からの信頼を更に揺るぎないものとしします。

環境変化に耐えうる、強固な収益基盤を創り上げる

利益水準の向上に向けた資産ポートフォリオの見直しや経営資源の選択と集中を明確にするとともに、固定経費の削減を強力に進めることにより基礎的収益力の強化を目指し、「環境変化に耐えうる、強固な収益基盤」を創り上げていくことを最重要課題としました。

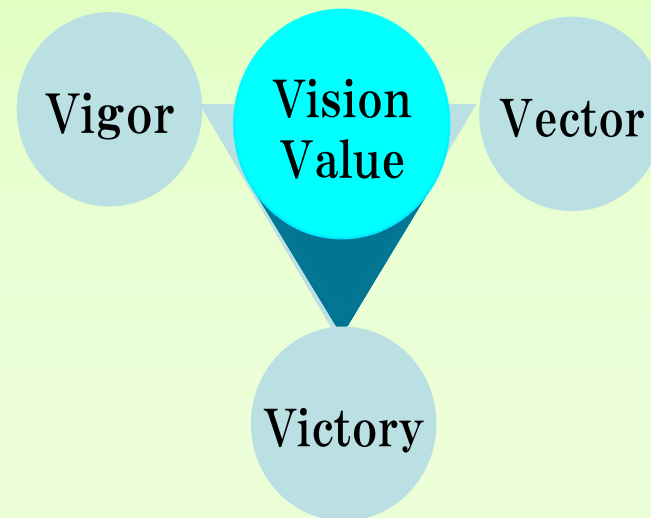
第8次長期経営計画【ベクトル - V】



第8次長計の概要

呼称 **ベクトル - V**

当行のめざす銀行像(vision)の実現ならびに企業価値(value)を向上させるため、全役職員が一丸となり力強い(vigor)ベクトル(vector)で経営計画を推進し、厳しい経営環境を克服(victory)する意を込めております。



期間 平成22年4月 ~ 平成25年3月

主要戦略

- 1 営業(現場)力の強化
- 2 金融円滑化・地域密着型金融の推進
- 3 市場運用部門の収益力強化
- 4 リスク管理態勢の高度化
- 5 次世代基幹システムへの移行による、効率的で迅速な金融サービスの提供
- 6 コストコントロールの厳格化
- 7 企業風土の改革
- 8 資本政策の強化

第8次長期経営計画【ベクトル - V】



ひと・暮らし・コミュニケーション
長野銀行

計 数 目 標

経営指標の目標(平成25年3月期)

※ただし、年度ごと、環境変化
に対応し改定します。

◆ 預金残高＋預り資産残高	1兆円
◆ コア業務純益	45億円
◆ 当期純利益	15億円
◆ OHR(コア業務粗利益経費率)	73.0%以下
◆ 自己資本比率	10.0%程度
◆ 不良債権比率	4.0%未満